

上のは、下に平字なり、

〔玄同放言<sup>三上</sup>事〕姓名稱謂

取父祖片名以名子孫事、こは延喜天曆の年間より、その萌見えたり、玄かれども藤氏に、時平、兼平、忠平、仲平のごとき、兄弟その名に、ひとしく平字を命け給へるのみ、父祖の片名を取り給ひしにはあらず、平家には貞盛繁盛あり、これも兄弟なり、圓融花山のおん時に、源氏に、滿仲、滿季、滿快、滿重あり、是も亦兄弟なりき、爾後頼信、頼義、義家、義親、平家には正度、正衡、正盛、忠盛に至りて、父祖の片名を取ること恒になりぬ、唐山にも父祖の名を嗣ぐこと稀にあり、さりてこの土のごとくにはあらず、語は日知録卷廿三に見えたり、文多ければ載せざるなり、本書に就きて見るべし、玄かはいへども、よに人の弟子たるもの、その師の片名を取りて、おのが名とし、或は亡師の名號を受けつぐ事、ふるくは和漢に所見なし、<sup>略</sup>○中 淨土宗の譽字、日蓮宗の日字は、これらを濫觴とすべし、それより又おし移りて、巫醫、百工、及文人墨客まで、各その師の名號を一字、わが名に受けつぐなるべし、

〔日本書紀<sup>四</sup>孝昭〕二十九年正月丙午、立世襲足媛爲皇后、<sup>略</sup>○註 后生<sup>アノクラシヒクニ</sup>天足彦國押人命、日本足彦國押人天皇、<sup>略</sup>○孝 安

〔日本書紀<sup>四</sup>孝安〕日本足彦國押人天皇、觀松彦香殖稻天皇、<sup>略</sup>○孝 第二子也、母曰世襲足媛、尾張連遠祖瀛津世襲之妹也、

〔古事記<sup>中</sup>孝元〕比古布都押之信命、娶尾張連等之祖、意富那毘之妹、葛城之高千那、毘賣<sup>那毘二</sup>生子、味師<sup>シウチ</sup>內宿禰<sup>此者山代內</sup>之祖也、又娶木國造之祖、宇豆比古之妹、山下影日賣生子、建內宿禰、

〔日本書紀<sup>四</sup>孝元〕雅日本根子彦大日日天皇、大日本根子彦國牽天皇、<sup>略</sup>○孝 第二子也、母曰鬱色謎命、穗積臣遠祖、鬱色雄命之妹也、